

Topic 08 地域のリアルにふれる — 多様な現場から学ぶ市民社会

5月28日、「市民社会論」にて、地域で活躍する5名のゲストスピーカーをお迎えしました。

登壇されたのは、大安工業の日沖将康さん、駄菓子屋ヤッホーの服部純子さん（本学OG）、マルデ鋳器の出口大介さん、いなべ市社会福祉協議会の服部篤史さん、市民活動センターの椎原未来さんです。授業では、現場での経験や想いを通して市民社会の実像が語られました。

服部純子さんは、地域のつながりを育む「駄菓子屋ヤッホー」の活動を紹介。敷地を提供する日沖さんからは、災害時の共助や地域福祉との連携について語られました。出口さんは、子どもたちとの関わりから得られる「お金では買えない価値」に触れ、服部篤史さんと椎原さんは、それぞれ福祉と市民活動の観点から地域連携の大切さを伝えてくれました。学生たちは、実践者の声に触れることで市民社会への理解を深めました。



Topic 09 岡村真選手『オカムラ』 — 新技が国際認定！



総合政策学部2年の岡村真選手が考案・成功させた段違い平行棒の新技が、「オカムラ」として国際体操連盟（FIG）より正式に技名認定されました。昨年のパリ五輪で体操女子日本代表として活躍した岡村選手は、2025年3月に行われた種目別ワールドカップ（W杯）トルコ大会で、この技を世界で初めて成功させました。技の正式名称は「大逆手後ろ振り半ひねり後方屈伸2回宙返り下り」。非常に高難度な終末技であり、FIGからはD難度として評価されています。世界大会で成功した選手の名前が技名に採用されるという国際ルールに則り、「オカムラ」という名が与えられました。本学所属の岡村真さんが世界で認められる快挙を成し遂げ、今後のさらなる活躍にも大きな注目が集まっています。

Topic 10 学内に登場！ — アサイーボウルのキッチンカー

5月下旬、四日市大学キャンパスにアサイーボウル専門のキッチンカー「Shake a Bully」が登場しました。華やかな見た目とさっぱりとした甘さが人気で、当日は本学だけでなく四日市看護医療大学の学生も多く訪れ、行列ができるほどの賑わいでした。カラフルなフルーツやグラノーラがトッピングされたアサイーボウルは写真映えも抜群で、SNSでも話題に。学生からは「初めて食べたけど美味しかった！」「また来てほしい！」との声上がり、キャンパスに笑顔が広がるひとときとなりました。



学生たちの活動やオープンキャンパスの最新情報はInstagramをチェック！



〔発行〕入試課
〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200
〔受験生サイト〕
<https://www.yokkaichi-u.ac.jp/admission/>



四日市大学の最新情報をお届け！



campus for you

2025.04～06

contents

- P.1 ▶ 鶴田ゼミ × 卵卵ふわあ〜む 〜じゃばらシロップ試飲会〜
▶ 川越町 × 吉川・岡ゼミ 〜政策提言プロジェクト〜
P.2 ▶ 命をつなぐ、浜辺の物語 — ウミガメと向き合う授業
▶ 竹林に息吹を — 学内で体験する里山保全

- P.3 ▶ 里山に響く音楽 — Chojiさんを迎えて
▶ 福祉と地域をつなぐ — マスコット活用の授業
▶ 先輩なんでも相談室 × 傾聴スキル講習会
P.4 ▶ 地域のリアルにふれる — 多様な現場から学ぶ市民社会
▶ 岡村真選手『オカムラ』 — 新技が国際認定！
▶ 学内に登場！ — アサイーボウルのキッチンカー

Topic 01 鶴田ゼミ × 卵卵ふわあ〜む 〜じゃばらシロップ試飲会〜

三重県紀北町にある垣善フレッグ株式会社「卵卵ふわあ〜む」と鶴田ゼミによる産学連携プロジェクトとして、「じゃばらシロップ試飲会」が5月8日、行われました。この試飲会は、地域資源を活かした商品開発を通して、学生が企画・広報・デザインなどの実践的な学びに取り組むものです。当日は2種類のじゃばらシロップ（酸味の強いタイプと甘めのタイプ）が提供され、多くの学生が試飲に訪れました。学生からは「新感覚！」「さっぱりして飲みやすい」など、さまざまな声が寄せられ、試飲会は盛況となりました。

今回のプロジェクトは、FM三重の15周年をきっかけに、卵卵ふわあ〜むと本学卒業生・故 柳田昌宏さん（同社代表の弟）のご縁からスタートしたものです。地域との深いつながりが、学生の学びと挑戦の舞台へとつながっています。今後は、10月の大学祭での販売を目標に、味のブラッシュアップ、パッケージデザイン、SNS発信やレシピ開発まで、学生たちが主体となって商品化を進めていきます。地域の魅力を発信する“学びのかたち”が、ここから動き出そうとしています。



ミニ解説
“鬼も逃げ出す”柑橘 — じゃばらの魅力
「じゃばら」は三重県紀北町原産の希少な柑橘。その強い酸味から「鬼も逃げ出す」と言われ、“邪を払う”意味を込めて「じゃばら」と名付けられたとされています。
花粉症やアレルギー症状の軽減に役立つ可能性があるなど、機能性食品としても注目を集めています。地域資源としての価値も高く、特産品として全国に広まりつつある柑橘です。

Topic 02 川越町 × 吉川・岡ゼミ 〜政策提言プロジェクト〜



川越町と四日市大学の包括連携協定に基づき、川越町の第7次総合計画後期基本計画・総合戦略の策定に向けた「若者会議」が4月17日に開催されました。この会議には、総合政策学部の吉川ゼミと岡ゼミの学生が参加し、川越町職員の方々と共に、町の現状や現行の総合計画についての説明を受けました。

その後、川越町での現地視察に向けた視察プランのアイデアを出し合い、活発な議論が交わされました。今後は、川越町内でのバスツアーやワークショップを通じて、若者の視点から実現可能な政策提言を目指します。学生たちは、地域の課題に対して自らの意見を持ち、実践的な学びを深める貴重な機会となっています。



Topic 03 命をつなぐ、浜辺の物語 — ウミガメと向き合う授業

5月20日、「地域環境論」では、昨年に引き続き「ウミガメネットワーク三重」代表・米川弥寿代さんを講師にお招きしました。長年、伊勢湾に上陸・産卵するアカウミガメの調査・保護活動を続けてこられた米川さんは、優しくも力強い語り口で、命の尊さと向き合う大切さを学生たちに伝えてくれました。

実物の標本や写真、映像などを用いながら、ウミガメの生態や保護の現状を解説。中でも学生たちが驚いたのは、「ウミガメは涙を流す」という話題でした。涙といっても、それは悲しみではなく、体内の塩分を排出するための仕組み。長い旅の途中、命を守るために必要な“しょっぱい涙”だといいます。



また、ウミガメの赤ちゃんが海にたどり着ける確率が「約1,000分の1」という厳しい現実や、温暖化の影響でメスしか生まれなくなる可能性、人工の光や海岸のごみ問題が産卵行動に与える影響など、身近な環境問題がウミガメの未来に直結していることも紹介されました。

学生たちからは、「温暖化でメスしか生まれなくなると聞いて衝撃だった。自分たちの生活が未来を左右していると実感した」「光害やごみの問題など、身近な課題が命を脅かしている。対策を考えたい」といった真剣な声が寄せられました。

さらに今回は、アカウミガメの甲羅の模型を背負い、砂浜に見立てたマットの上を匍匐前進する体験も実施。短い距離でも想像以上の体力を要し、「自然界で生きることの過酷さを、身体で感じた」と多くの学生が語りました。海辺の静かな営みのなかにある、いのちの連なり。その小さな声に気づくことから、環境へのまなざしは育ちます。今年もまた、ウミガメと向き合うこの講義が、学生一人ひとりに「自分にできることを考えるきっかけ」を与えてくれました。



Topic 04 竹林に息吹を — 学内で体験する里山保全

四日市大学のキャンパス内で、環境情報学部1年生を中心とした約60名が参加し、「竹林保全実習」が4月16日に行われました。この実習は、学内の里山整備を行っている「NPO法人PPK四日市（代表：植松正弘）」から6名の講師を招き、「環境情報学概論Ⅰ」の一環として、実施されました。

学生たちは6班に分かれ、竹の伐採、切り分け、枝打ち、野積みなど、竹林整備の一連の作業を体験しました。また、実習の最後にはタケノコ掘りも行い、里山の恵みを実感しました。参加した学生からは、「実際に竹を切るのは想像以上に大変だったが、自然との関わりを肌で感じる事ができた」といった声が聞かれました。

この実習を通じて、学生たちは里山保全の重要性を学び、自然との共生について考える貴重な機会となりました。このような実習を通して、学生たちは自然環境への理解を深めています。今後も、地域と連携した環境保全活動に継続して取り組んでまいります。



Topic 05 里山に響く音楽 — Chojiさんを迎えて



「地域環境論」では、6月11日に津市美杉町在住の音楽家・Choji（チョウジ）さんを、昨年に引き続きお迎えしました。Chojiさんは津市美杉町で農業で暮らしを営みながら、地域の日常や自然との関わりを音楽で表現・発信する活動を行っています。

講義は大学スタジオで実施され、約40名の学生が参加。美杉町での暮らしや、里山が抱える課題（耕作放棄地、メガソーラー、農業による生態系の変化など）についての語りにつき、ギターや篠笛、キーボードを用いた5曲の生演奏が披露されました。

「田んぼオブザワールド」「ノアガリヒマチ」などの楽曲には、美杉町の四季や人々の暮らしへのまなざしが込められており、学生たちからは「言葉以上に伝わるものがあった」「自分の故郷を思い出した」などの声が寄せられました。

また、照明・音響ゼミの学生たちが演出を担当し、学生参加型の講義としても高い完成度を実現しました。環境を“体感”し“伝える力”を育むこの講義は、今後も学生にとって大切な学びの場となりそうです。



Topic 06 福祉と地域をつなぐ — マスコット活用の授業

「地域福祉論」にて、特定非営利活動法人ドラゴンズベースボールアカデミー事務局長の石黒哲男さんを5月30日ゲストスピーカーにお迎えしました。石黒さんは、中日ドラゴンズが運営する非営利団体の活動に携わっており、今回は「プロ野球マスコットと地域（地域福祉）」をテーマに講演いただきました。

中日ドラゴンズのマスコットキャラクター「ドアラ」は、チームを応援する存在であると同時に、選手の思いを代弁する“アドボカシー”的な役割も担っています。災害復興支援や地域イベントへの参加など、普段から親しまれている存在だからこそできる貢献の形があると石黒さんは熱く語られました。

プロ野球チームと地域との関わり、そして福祉活動への広がりについて、学生たちは新たな視点から学ぶ機会となりました。



Topic 07 先輩なんでも相談室 × 傾聴スキル講習会



「ちょっと聞いてほしい」「なんとなく不安」

そんな学生の声に寄り添う場として、本学では今年度より「先輩なんでも相談室」を開設しました。学生生活で感じる悩みや迷いに、頼れる“少し先を行く先輩たち”が耳を傾け、優しく応えてくれる取り組みです。昼休みを活用し、毎週木曜日にラーニングコモンズで開室しています。

先日、この相談室をより安心して利用できる場とするため、対応する先輩学生を対象に「傾聴スキル講習会」が行われました。講師は、本学の臨床心理士・竹中薫先生。「うなずくだけが“聞く”ではない」というテーマのもと、ロールプレイなどを通して実践的な学びを深めました。今後も相談しやすい環境づくりを目指し、先輩相談員たちは活動続けていきます。



📅 開催日：毎週木曜日 12:20～13:00
📍 場所：ラーニングコモンズ（情報センター1階）

※予約不要・相談しなくても話を聞くだけでもOK！
※個人の連絡先の交換はご遠慮ください
※メンタル面での相談は、保健室または学務課まで

